



イベント分析

ここでは、次の内容について説明します。

- [アラーム \(1 ページ\)](#)
- [イベント \(7 ページ\)](#)
- [アカウンティング \(12 ページ\)](#)

アラーム

このタブには、さまざまなカテゴリに対して生成されたアラームが表示されます。このタブには、ID (オプション)、重大度、障害ソース、名前、カテゴリ、確認応答、作成時刻、最終更新日 (オプション)、ポリシー、メッセージなどの情報が表示されます。このタブで [更新間隔 (Refresh Interval)] を指定できます。1 つ以上のアラームを選択し、[ステータスの変更 (Change Status)] ドロップダウンリストを使用して、アラームのステータスを確認または確認解除できます。また、1 つ以上のアラームを選択し、[削除 (Delete)] ボタンをクリックしてアラームを削除できます。

発行されたアラーム

次の表では、[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アラーム (Alarms)] > [発生したアラーム (Alarms Raised)] に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
重大度	アラームの重大度を指定します
送信元	送信元の名前を指定します。
名前	アラームの名前を指定します。
カテゴリ	アラームのカテゴリを指定します。
作成時刻	アラームが作成された時刻を指定します。
ポリシー	アラームのポリシーを指定します。
Message	メッセージを表示します。

フィールド	説明
Ack User	アラームを確認したユーザのユーザ名。

次の表では、**[操作 (Actions)]**メニューのドロップダウンリストに表示されるアクション項目について説明します。これらの項目は、**[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アラーム (Alarms)] > [発生したアラーム (Alarms Raised)]**に表示されます。

アクション項目	説明
確認応答あり	アラームを選択し、 [確認 (Acknowledge)] を選択してアラームを適用します。
未確認	アラームを選択し、 [未確認 (Unacknowledge)] を選択してアラームポリシーを拒否します。
クリア (Clear)	アラームを選択し、 [クリア (Clear)] を選択してアラームポリシーを適用します。
アラームの削除	アラームを選択し、 [削除 (Delete)] を選択してアラームを削除します。

クリアされたアラーム

このタブには、クリアされたアラームが表示されます。このタブには、ID (オプション)、重大度、障害ソース、名前、カテゴリ、確認応答、作成時刻、クリア時 (オプション)、クリア元、ポリシー、メッセージなどの情報が表示されます。1つ以上のアラームを選択し、**[削除 (Delete)]**ボタンをクリックしてアラームを削除できます。

次の表では、**[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アラーム (Alarms)] > [クリアされたアラーム (Alarms Cleared)]**に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
重大度	アラームの重大度を指定します
送信元	送信元アラーム IP アドレスを指定します。
名前	アラームの名前を指定します。
カテゴリ	アラームのカテゴリを指定します。
作成時刻	アラームが作成された時刻を指定します。
クリアされた時間	アラームがクリアされた時刻を指定します。
クリアしたユーザ	アラームをクリアしたユーザを指定します。
ポリシー	アラームのポリシーを指定します。
Message	アラームの CPU 使用率およびその他の詳細を指定します。
Ack User	確認応答されたユーザ ロール名を指定します。

次の表に、[アクション (Actions)]メニューのドロップダウンリストで、[操作 (Operations)]>[イベント分析 (Event Analytics)]>[アラーム (Alarms)]>[クリアされたアラーム (Alarms Cleared)]に表示されるアクション項目を示します。

アクション項目	説明
アラームの削除	アラームを選択し、[削除 (Delete)]を選択して、クリアされたアラームを削除します。

アラームポリシーの監視と追加

でアラームを有効にし、[操作 (Operations)]>[イベント分析 (Analytics)]>[アラーム (Alarms)]に移動し、垂直タブの[アラームポリシー (Alarm Policies)]をクリックします。[外部アラームの有効化]チェックボックスが選択されていることを確認します。これを有効にするには、を再起動する必要があります。

の登録済みSNMPリスナーにアラームを転送できます。Cisco Web UIから、[設定 (Settings)]>[サーバ設定 (Server Settings)]>[アラーム (Alarms)]を選択し、[外部アラームの有効化 (Enable external alarms)]チェックボックスがオンになっていることを確認します。これを有効にするには、を再起動する必要があります。

の登録済みSNMPリスナーにアラームを転送できます。Cisco Web UIから、[設定 (Settings)]>[サーバ設定 (Server Settings)]>[アラーム (Alarms)]を選択し、alarm.trap.listener.addressフィールドに外部ポートアドレスを入力し、[変更の適用 (Apply Changes)]をクリックして、SANコントローラを再起動します。



(注) [アラームポリシーの作成 (Alarm Policy creation)]ダイアログウィンドウで[転送 (Forwarding)]チェックボックスをオンにして、外部SNMPリスナーへのアラームの転送を有効にします。

次の表では、[操作 (Operations)]>[イベント分析 (Event Analytics)]>[アラーム (Alarms)]>[アラームポリシー (Alarms Policies)]に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
名前	アラームポリシーの名前を指定します
説明	アラームポリシーの名前を指定します
ステータス	アラームポリシーのステータスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ • 非アクティブ

フィールド	説明
ポリシータイプ	ポリシーのタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • デバイスのヘルス ポリシー • インターフェイスのヘルス ポリシー • syslog アラームポリシー
Devices	アラーム ポリシーを適用するデバイスを指定します。
インターフェイス	インターフェイスを指定します。
詳細	ポリシーの詳細を指定します。

次の表では、**[操作 (Actions)]** メニュー ドロップダウン リストのアクション項目について説明します。この項目は、**[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アラーム (Alarms)] > [アラーム ポリシー (Alarms Policies)]** に表示されます。

アクション項目	説明
新しいアラーム ポリシーの作成	新しいアラーム ポリシーを作成することを選択します。「 新しいアラーム ポリシーの作成 」の項を参照してください。
編集	アラーム ポリシーを編集するには、ポリシーを選択し、 [編集 (Edit)] を選択します。
削除	アラーム ポリシーを削除するには、ポリシーを選択し、 [削除 (Delete)] を選択します。
アクティブ化 (Activate)	アラーム ポリシーをアクティブ化して適用するには、ポリシーを選択し、 [アクティブ化 (Activate)] を選択します。
非アクティブ化	アラーム ポリシーを無効にして非アクティブにするには、ポリシーを選択し、 [非アクティブ化 (Deactivate)] を選択します。
インポート	.csv ファイルからアラーム ポリシーを一括でインポートする場合に選択します。
エクスポート	アラーム ポリシーを .csv ファイルから一括でエクスポートする場合に選択します。

次のアラーム ポリシーを追加できます。

- **デバイスヘルスポリシー**：デバイスヘルスポリシーを使用すると、デバイスICMP到達不能、デバイスSNMP到達不能、またはデバイスSSH到達不能の場合にアラームを作成できます。また、これらのポリシーを使用すると、シャーシの温度、CPU、およびメモリの使用状況をモニタできます。
- **インターフェイスヘルスポリシー**：インターフェイスヘルスポリシーを使用すると、インターフェイスのアップまたはダウン、パケット廃棄、エラー、帯域幅の詳細をモニタで

きます。デフォルトでは、すべてのインターフェイスがモニタリングのために選択されています。

- **Syslog アラーム ポリシー** : Syslog アラーム ポリシーは、Syslog メッセージ形式のペアを定義します。1つはアラームを発生させ、もう1つはアラームをクリアします。

新しいアラーム ポリシーの作成

次のアラーム ポリシーを追加できます。

- デバイスのヘルス ポリシー
- インターフェイスのヘルス ポリシー
- syslog アラームポリシー

デバイスのヘルス ポリシー

デバイスヘルスポリシーを使用すると、デバイス ICMP 到達不能、デバイス SNMP 到達不能、またはデバイス SSH 到達不能の場合にアラームを作成できます。また、これらのポリシーを使用すると、シャーシの温度、CPU、およびメモリの使用状況をモニタできます。

ポリシーを作成するデバイスを選択します。ポリシー名、説明、CPU使用率パラメータ、メモリ使用率パラメータ、環境温度パラメータ、デバイスの可用性、およびデバイス機能を指定します。[**デバイス機能 (Device Features)**] で、BFD、BGP、および HSRP プロトコルを選択できます。これらのチェックボックスをオンにすると、**BFD-ciscoBfdSessDown**、**ciscoBfdSessUp**、**BFD-bgpEstablishedNotification**、**bgpBackwardTransNotification**、**cbgpPeer2BackwardTransition** ()、**cbgpPeer2EstablishedNotification**、および **HSRP-cHsrpStateChange** のアラームがトリガーされます。詳細なトラップ OID 定義については、<https://snmp.cloudapps.cisco.com/Support/SNMP/do/BrowseOID.do?local=en> を参照してください。

インターフェイスのヘルス ポリシー

インターフェイスヘルスポリシーを使用すると、インターフェイスのアップまたはダウン、パケット廃棄、エラー、帯域幅の詳細をモニタできます。デフォルトでは、すべてのインターフェイスがモニタリングのために選択されています。

ポリシーを作成するデバイスを選択します。ポリシー名、説明、リンクステータス、帯域幅 (イン/アウト)、インバウンドエラー、アウトバウンドエラー、インバウンド廃棄、およびアウトバウンド廃棄を指定します。

Syslog アラーム

Syslog アラームポリシーは、Syslog メッセージ形式のペアを定義します。1つはアラームを発生させ、もう1つはアラームをクリアします。

ポリシーを作成するデバイスを選択し、次のパラメータを指定します。

- **デバイス** : このポリシーの範囲を定義します。このポリシーを適用する個々のデバイスまたはすべてのデバイスを選択します。

- ポリシー名：このポリシーの名前を指定します。一意の名前を指定する必要があります。
- 説明：このポリシーの簡単な説明を指定します。
- 転送：Cisco Nexus Dashboard ファブリックコントローラ SAN コントローラの登録済み SNMP リスナーにアラームを転送できます。Web UI から、**[設定 (Settings)] > [サーバ設定 (Server Settings)] > [イベント (Events)]** を選択します。



注 [アラーム ポリシーの作成 (Alarm Policy creation)] ダイアログ ウィンドウで **[転送 (Forwarding)]** チェックボックスをオンにして、外部 SNMP リスナーへのアラームの転送を有効にします。

- 電子メール：アラームが作成、クリア、または重大度が変更されたときに、アラームイベントの電子メールを受信者に転送できます。Web UI から、**[設定 (Settings)] > [サーバ設定 (Server Settings)] > [イベント (Events)]** を選択します。SMTP パラメータを設定し、**[保存 (Save)]** をクリックして、SAN コントローラ を再起動します。
- 重大度：この syslog アラーム ポリシーの重大度レベルを定義します。選択肢は、Critical、Major、Minor、および Warning です。
- 識別子：発生およびクリア メッセージの識別子部分を指定します。
- Raise Regex：syslog 発生メッセージの形式を定義します。構文は次のとおりです。
Facility-Severity-Type：メッセージ
- Clear Regex：syslog クリア メッセージの形式を定義します。構文は次のとおりです。
Facility-Severity-Type：メッセージ

正規表現の定義は単純な式ですが、完全な正規表現ではありません。テキストの変換領域は、\$(LABEL) 構文を使用して示されます。各ラベルは、1 つ以上の文字に対応する正規表現キャプチャグループ (+) を表します。2 つのメッセージを関連付けるために、raise メッセージと clear メッセージの両方にある可変テキストが使用されます。識別子は、両方のメッセージに表示される 1 つ以上のラベルのシーケンスです。識別子は、ckear syslog メッセージをアラームを発生させた syslog メッセージと照合するために使用されます。テキストがメッセージの 1 つだけに表示される場合は、ラベルを付けて識別子から除外できます。

例：「値」が「ID1-ID2」のポリシー

```
"syslogRaise": "SVC-5-DOWN: $(ID1) module $(ID2) is down $(REASON)"
"syslogClear": "SVC-5-UP: $(ID1) module $(ID2) is up."
```

この例では、ID1 および ID2 ラベルをアラームとして検出するための識別子としてマークできます。この識別子は、対応する syslog メッセージで見つかります。ラベル「REASON」は昇格ですが、クリアメッセージにはありません。このラベルは、アラームをクリアする syslog メッセージに影響しないため、識別子から除外できます。

表 1:例 1

識別子	ID1-ID2
Raise Regex	ETHPORT-5-IF_ADMIN_UP : インターフェイス Ethernet15/1 で admin が起動されています。
Clear Regex	ETHPORT-5-IF_DOWN_NONE : インターフェイス Ethernet15/1 がダウンしています (トランシーバ欠落)

上記の例では、正規表現は端末モニタに表示される syslog メッセージの一部です。

表 2:例 2

Identifier	ID1-ID2
Raise Regex	ETH_PORT_CHANNEL-5-PORT_DOWN : \$ (ID1) : \$ (ID2) がダウンしています
Clear Regex	ETH_PORT_CHANNEL-5-PORT_UP : \$ (ID1) : \$ (ID2) が起動しています

表 3:例 3:

Identifier	ID1-ID2
Raise Regex	ETHPORT-5-IF_SFP_WARNING : Interface \$ (ID1) 、 High Rx Power Warning
Clear Regex	ETHPORT-5-IF_SFP_WARNING : Interface \$ (ID1) 、 High Rx Power Warning clear

イベント

このタブには、スイッチに対して生成されたイベントが表示されます。このタブには、Ack、確認済みユーザ、グループ、スイッチ、重大度、ファシリティ、タイプ、カウント、最終確認、説明などの情報が表示されます。1つ以上のイベントを選択し、[ステータスの変更 (Change Status)] ドロップダウンリストを使用して、そのステータスを確認または確認解除できます。また、1つ以上のアラームを選択し、[削除 (Delete)] ボタンをクリックしてアラームを削除できます。すべてのイベントを削除する場合は、[すべてを削除 (Delete All)] ボタンをクリックします。

次の表で、[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [イベント (Events)] に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
グループ	ファブリックを指定します。
スイッチ	スイッチのホスト名を指定します。

フィールド	説明
重大度	イベントの重大度を指定します。
施設	イベントを作成するプロセスを指定します。 イベント ファシリティには、NDFC と syslog ファシリティとの2つのカテゴリがあります。Nexusダッシュボードファブリックコントローラファシリティは、Nexusダッシュボードファブリックコントローラ内部サービスによって生成されたイベントと、スイッチによって生成されたSNMPトラップを表します。syslogファシリティは、syslogメッセージを作成したマシンプロセスを表します。
タイプ	スイッチ/ファブリックの管理方法を指定します。
数	イベントが発生した回数を提供します。
作成時刻	イベントが作成された時刻を指定します。
前回の検出	イベントが最後に実行された時刻を指定します。
説明	イベントに提供される説明を指定します。
Ack	イベントを確認するかどうかを指定します。

次の表では、[操作 (Actions)]メニュー ドロップダウンリストで、[操作 (Operations)]> [イベント分析 (Event Analytics)]> [イベント (Events)]に表示されるアクション項目について説明します。

アクション項目	説明
確認応答あり	テーブルから1つ以上のイベントを選択し、 [確認 (Acknowledge)] アイコンを選択して、ファブリックのイベント情報を確認します。 ファブリックのイベントを確認すると、確認アイコンが[グループ (Group)]の横の[Ack]列に表示されます。
未確認	テーブルから1つ以上のイベントを選択し、 [確認解除 (Unacknowledge)] アイコンを選択して、ファブリックのイベント情報を確認します。
削除	イベントを選択し、 [削除 (Delete)] をクリックします。
イベントのセットアップ	では新しいイベントを設定できます。詳細については、「 イベントのセットアップ (9 ページ) 」を参照してください。

イベントのセットアップ

Cisco Nexusダッシュボードファブリックコントローラ Web UI を使用してイベントを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [イベントのセットアップ (Event Setup)] の順に選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンメニューから、[イベントのセットアップ (Event Setup)] を選択します。

ステップ 2 [レシーバ (Receiver)] タブで、次の手順を実行します。

- a) この機能を有効にするには、トグル ボタンを使用します。
- b) [Syslog メッセージを DB にコピー (Copy Syslog Messages to DB)] を選択し、[適用 (Apply)] をクリックして syslog メッセージをデータベースにコピーします。このオプションを選択しない場合、イベントは Web クライアントのイベント ページに表示されません。2 番目のテーブルの列には、次の情報が表示されます。
 - トラップを送信するスイッチ
 - syslog を送信するスイッチ
 - syslog アカウンティングを送信するスイッチ
 - 遅延トラップを送信するスイッチ
- c) [送信元 (Sources)] タブのテーブルには、関連付けられているファブリックとスイッチが表示されます。また、トラップと syslog に関する情報も表示されます。

ステップ 3 Cisco Nexusダッシュボードファブリックコントローラ Web UI からシステムメッセージの通知転送を追加および削除するには、次の手順を実行します。

Cisco Nexusダッシュボードファブリックコントローラ Web UI は、電子メールまたは SNMPv1 トラップを介してファブリック イベントを転送します。一部の SMTP サーバでは、Nexusダッシュボードファブリックコントローラ から SMTP サーバに送信される電子メールに認証パラメータを追加する必要があります。Nexusダッシュボードファブリックコントローラ により認証を必要とする任意の SMTP サーバに送信される電子メールに認証パラメータを追加できます。この機能は、[設定 (Settings)] > [サーバ設定 (Server Settings)] > [イベント (Events)] タブで有効にします。

- a) [設定 (Settings)] > [サーバ設定 (Server Settings)] > [イベント (Events)] を選択します。イベント転送を有効にするには、[イベント転送を有効にする (Enable Event forwarding)] チェックボックスをオンにします。イベントの転送範囲、レシーバの電子メールアドレス、イベントの重大度、およびイベントのタイプが表示されます。説明の [正規表現 (Regex)] フィールドは、転送送信元がイベント フォワーダの追加時に転送元が Syslog として選択されている場合のみ適用されます。
- b) SMTP サーバの詳細と送信元電子メールアドレスを指定します。スヌーズおよびイベント カウント フィルタを設定します。

- c) **[Save (保存)]** をクリックします。
- d) **[操作 (Operations)]** > **[イベント分析 (Event Analytics)]** の順に選択します。**[操作 (Actions)]** ドロップダウンリストから **[ルールの追加 (Add Tags)]** を選択します。
- e) **[転送メソッド (Forwarding Method)]** で、**[電子メール]** または **[トラップ (Trap)]** を選択します。

[トラップ (Trap)] を選択した場合は、ダイアログボックスに **[アドレス (Address)]** と **[ポート (Port)]** フィールドが追加されます。

- f) **電子メール転送メソッド** を選択する場合は、**[電子メールアドレス (Email Address)]** フィールドに IP アドレスを入力します。**トラップメソッド** を選択する場合は、**[アドレス (Address)]** フィールドにトラップ レシーバの IP アドレスを入力し、ポート番号を指定します。

[アドレス (Address)] フィールドに IPv4 または IPv6 アドレスまたは DNS サーバ名を入力できます。

- g) **[ファブリック (Fabric)]** フィールドで、通知するすべてのグループまたは特定のファブリックを選択します。SAN インストーラの場合は、**[VSAN 範囲 (VSAN Scope)]** を選択します。**[すべて (All)]** または **[リスト (List)]** オプションを選択できます。リストを選択した場合は、通知用の VSAN のリストを指定します。
- h) **[送信元]** フィールドで、Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ または **[Syslog]** を選択します。

- Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラ を選択すると、次のようになります。

1. **[タイプ (Type)]** ドロップダウンリストから、イベント タイプを選択します。
2. **[ストレージポートのみ (Storage Ports Only)]** チェックボックスをオンにして、ストレージポートのみを選択します。
3. **[最低重大度]** ドロップダウンリストで、受信するメッセージの重大度を選択します。
4. **[追加 (Add)]** をクリックして、通知を追加します。

- **[Syslog]** を選択した場合 :

1. **[ファシリティ (Facility)]** リストから、syslog のファシリティを選択します。
2. syslog **タイプ** を指定します。
3. **[説明の正規表現 (Description Regex)]** フィールドで、イベントの説明と一致する説明を指定します。
4. **[最低重大度 (Minimum Severity)]** ドロップダウンリストで、受信するメッセージの重大度を選択します。
5. **[追加 (Add)]** をクリックして、通知を追加します。

- (注) [最低重大度 (Minimum Severity)]オプションは、[イベントタイプ (Event Type)]が[すべて (All)]に設定されている場合のみ使用できます。

Cisco Nexusダッシュボード ファブリック コントローラが送信するトラップは、重大度タイプに対応しています。重大度タイプとともにテキストによる説明も提供されます。

```
trap type(s) = 40990 (emergency)
40991 (alert)
40992 (critical)
40993 (error)
40994 (warning)
40995 (notice)
40996 (info)
40997 (debug)
textDescriptionOid = 1, 3, 6, 1, 4, 1, 9, 9, 40999, 1, 1, 3, 0
```

- i) [ルール の追加 (Add Rule)]をクリックします。

ステップ 4 Cisco Nexusダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI からイベント抑制にルールを追加するには、次の手順を実行します。

Cisco Nexusダッシュボード ファブリック コントローラ では、ユーザ指定のサブレッサールールに基づいて、指定されたイベントを抑制することができます。このようなイベントは、Cisco Nexusダッシュボード ファブリック コントローラ Web UIおよび SAN クライアントには表示されません。イベントは Nexusダッシュボード ファブリック コントローラ データベースに保持されず、電子メールまたは SNMP トラップを介して転送されません。

テーブルからサブレッサールールを表示、追加、変更、および削除できます。既存のイベントテーブルからサブレッサールールを作成できます。テンプレートとして特定のイベントを選択し、ルール ダイアログウィンドウを呼び出します。イベントの詳細は、イベントテーブルで選択したイベントから、ルール作成ダイアログウィンドウの入力フィールドに自動的に移植されます。

- (注) Cisco Nexusダッシュボード ファブリック コントローラ Web UI から EMC Call Home イベントを抑制することはできません。

- a) ルールの名前を指定します。
b) イベント送信元に基づくルールに必要な [範囲 (Scope)]を選択します。

[範囲 (Scope)] ドロップダウンリストには、LAN グループとポートグループが個別に表示されます。[SAN/LAN]、[ポートグループ (Port Groups)]、または[任意 (Any)]を選択できます。SAN および LAN の場合は、ファブリックまたはグループまたはスイッチレベルでイベントの範囲を選択します。ポートグループ スコープのグループのみを選択できます。範囲として[任意 (Any)]を選択すると、サブレッサールールがグローバルに適用されます。

- c) ファシリティ名を入力するか、SAN/LAN スイッチイベントファシリティリストから選択します。

ファシリティを指定しない場合は、ワイルドカードが適用されます。

- d) ドロップダウン リストから [イベントタイプ (Event Type)]を選択します。

イベントタイプを指定しない場合は、ワイルドカードが適用されます。

- e) **[説明の照合 (Description Matching)]** フィールドで、一致する文字列または正規表現を指定します。

ルール照合エンジンは、Java パターンクラスでサポートされている正規表現を使用して、イベントの説明テキストとの一致を検索します。

- f) **[アクティブ範囲 (Active Between)]** ボックスをオンにして、イベントが抑制される有効な時間範囲を選択します。

デフォルトでは、時間範囲は有効になっていません。つまり、ルールは常にアクティブです。

(注) 一般に、アカウントिंगイベントを抑制しないでください。アカウントिंगイベントの抑制ルールは、アカウントिंगイベントが Nexus ダッシュボードファブリックコントローラまたはソフトウェアのスイッチのアクションによって生成される特定のまれな状況でのみ作成できます。たとえば、Nexus ダッシュボードファブリックコントローラと管理対象スイッチ間のパスワード同期中に、多数の「sync-snmp-password」AAA syslog イベントが自動的に生成されます。アカウントिंगイベントを抑制するには、[サプレッサ (Suppressor)] テーブルに移動し、[イベントサプレッサルールの追加 (Add Event Suppressor Rule)] ダイアログウィンドウを呼び出します。

- g) [ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。

アカウントिंग

Cisco Nexus ダッシュボードファブリックコントローラ Web UI でアカウントिंग情報を表示できます。

次の表では、[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アカウントिंग (Accounting)] > に表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
ソース (Source)	送信元 SGT を指定します。
User Name	ユーザ名を指定します。
時間	イベントが作成された時刻を指定します。
説明	説明を表示します。
グループ	グループの名前を指定します。

次の表では、[操作 (Actions)] ドロップダウンリストのアクション項目について説明します。これらの項目は、[操作 (Operations)] > [イベント分析 (Event Analytics)] > [アカウントिंग (Accounting)] に表示されます。

アクション項目	説明
削除	リストからアカウントティング情報を削除するには、行を選択して[削除 (Delete)]を選択します。

